

■ これもそれもあれも何もかもが「自業自得」

修正： 2019.03.01

投稿： 2019.03.01



● これもそれもあれも何もかもが「自業自得」①

何百年も前の文献、と言うより、

その解説書を読むことがあります、
研究にしろ、商売にしろ、人間関係にしろ、
昔の考え方が現代でも役立つことは驚きです。

//-----

自分に落ち度があって失敗したとき、
「いやいやいや、お前、それは自業自得だろ！」
と周囲から何かとツッコミが入るものですが、

より正しく言えば、「それは」どころか、
「これもそれもあれも何もかも」が自業自得です。

甘いものを食べすぎて虫歯になってしまうのも、
人の嫌がることを言って嫌われてしまうのも、
電車が遅刻して試験に間に合わなかったのも、
空き巣に入られて金品を盗まれてしまうのも、

何もかもが自業自得です。と言うと、
「いやいやいや、それは自業自得じゃないだろ！」
不可抗力だ！悪いのは相手だ！」
と言いたくなるケースもあると思います。が、

自分に落ち度がなくとも、仮に相手が 100%悪くとも、
これもそれもあれも何もかもが自業自得です。
なぜなら、そうなる未来を誘発したのは、
他ならぬ**自らの意思決定**だからです。

「ここからここまでは自業自得で、
これ以外の部分は自業自得ではない！」
と言うような話ではありません。
自分の人生のすべてが自業自得です。

学校で子供がイジメられたとか、
台風で家の屋根が吹き飛んだとか、
妻が夫から家庭内暴力を受けたとか、

山でクマに遭遇し襲われたとか、

いかにも自分は被害者で悪いのは相手、
もしくは、どうすることもできない不可抗力、
と思われるケースも含めて、すべて**自業自得**です。

だからこそ人生は難しいのです。
ただ道を歩いているだけでも交通事故に遭って
死ぬかもしれないのですから。

(続)

//=====//

●これもそれもあれも何もかもが「自業自得」②

今日、当たり前のように口にされている

「**自業自得**」という言葉は、
元は仏教の言葉であり、仏教の概念です。

細かく見ていくと、「**業**」とは**行い**のことで、

意業(いごう)…思うこと

口業(くごう)…喋ること

身業(しんごう)…行うこと

の三つに分類されています。これを三業と言います。

こうした行いが積み重なって、自らの未来が作られていくわけであり、
かつ、**未来とは自分が得るもの**であるからこそ、
人生は**自業自得**なのだと解釈されています。読んで字のごとくです。

思えば、生まれた瞬間から、**自業自得**の連続です。

特に生まれ育った家庭環境の影響は大きいでしょう。

「蛙の子は蛙」と言われているように、父親が研究者で、幼い頃から科学雑誌や実験器具に囲まれて生活していれば、自然と子供もサイエンスに興味を抱くようになります。

はたまた、親が他人の悪口ばかり言っていては、人の悪口を聞くことに慣れてしまい、そのうち、自分も当たり前のように他人の悪口を言うようになります。

自分に原因が無いように思えることであっても、過去をどこまでもさかのぼれば、
どこかで原因が見つかるものです。

そうした(無限に)遠い過去からの積み重ねにより自らの未来が作られている、という考え方が「自業自得」です。

なぜかモテる人がいる一方で、まったくモテない人がいたり、起業して成功する人がいる一方で、失敗して借金を抱える人がいるのも、
これまでの行いの積み重ねの差です。

日本昔話の「はなさかじいさん」や「こぶとりじいさん」でも語られている、一方が成功し一方が真似をして失敗するという話も、こうした自業自得を表したお話です。

「成功する・失敗する」の違いは、**行いの積み重ねの違い**なのであり、決して、**直前の行為の違いではありません**。したがって、モテない人がモテる人の振る舞いをちょっと真似したところで、途端にモテるようになる、ということはないのです。

(続)

//=====//

●これもそれもあれも何もかもが「自業自得」③

「車は急には止まらない」と言うのは、
走っている車には慣性があるのだから、
飛び出されても急に止まることはできない、という意味です。

同様に、人の心にも慣性が働いています。よって、
何かを続けていれば、今後もそれを続けたいくなります。

例えば、今までゲームばかりやっていた子供が、
急にゲームをしなくなることはありません。
明日もやはりゲームに熱中することでしょう。

はたまた、陰でこそこそ人の悪口を言い続けてきた人が、
急に穏やかになり、人の悪口を言わなくなる、
なんてこともありません。おそらく明日も、
陰で人の悪口を言い続けることでしょう。

心の慣性です。
壁にでも激突しない限り、車が急に止まることはないように、
私たちの心も、いきなり向きを変えることはありません。

「(これまでは、ず〜っと遊んできたけど)
これからは、毎日勉強するぞ! (´・ω・｀)」とか、

「(これまでは、ず〜っと人を見下してきたけど)
これからは、人に感謝して生きていくぞ! (￣д￣)」など、

無理でしょう。これまでそうしてこなかったのですから。
時速 60km で走っている車が、
そのスピードのまま左折することはできないように、
これまでの慣性を宿したまま、急に生き方を変えることはできません。

私たちの心にも「慣性の法則」は働いているのです。
昨日と同じような今日があって、そして、
今日と同じような明日があります。何も不思議なことではありません。

加えて、未来は現在の努力で決まるではありません。
これまでの生き方で決まるのです。これを「自業自得」と言います。

(続)

//=====//

●これもそれもあれも何もかもが「自業自得」④

楽しんで得しようとすると、むしろ損をするものです。
運が良ければ、一度や二度は上手くいくかもしれませんが、
そう何度も何度も、楽しんで得できるものではありません。

しかし、一度でも楽しんで得することを覚えてしまうと、
そのやり方から抜けられなくなります。
例えば、詐欺や窃盗、性犯罪やドラッグなどです。
当然、逮捕されますが、そこから更生することは稀です。

わいせつ行為で逮捕された学校の教師は、
釈放されて教壇に戻ってきても、再びわいせつ行為に及びがちですし、
はたまた、体罰指導ばかりしてきた教師は、
反抗的な生徒を目前にすると、やはり暴力に頼ろうとします。

しかし、こうしたことも、いつまでもは続けられません。
体罰でしか指導できない人は、時代が変わり、
体罰が許されなくなると、指導の術を失いますし、
タバコや酒も、やりすぎるとそのうち身体が壊れます。そうして、

「こんな生き方ではダメだ。抜本的に改善し、
健全に生きていこう！（`・ω・´）」と反省し、
決意を新たにしても、今まで積み重ねてきた過去がありますから、
自分を変えることは容易ではありません(**自業自得**)。

「自業自得」が本当に恐ろしいのは、
自分を変えることが日に日に難しくなり、
やがて何も変えられなくなるところにあります。

もし生き方を変えたいのであれば早いうちです。
40 歳を過ぎると、生き方は何一つ変えられなくなる、とされています。
「鉄は熱いうちに打て！」とされているように、
自分を変えられるのは、まだ過去の少ない若いうちだけなのです。

(続)

//=====//

●これもそれもあれも何もかもが「自業自得」⑤

4 回にわたって「**自業自得**」を説いてまいりました。
最後に「**理不尽にクレームをつける孤独な高齢男性**」
を例にとって、この回は終わりにしたいと思います。

女性と比べて男性は、**仕事一筋**に精を出す傾向があります。
家庭のためと言い、家族よりも仕事にまい進した結果、定年退職し、
あらゆる人間関係が途切れ、寂しい思いをする人も多々います。

職場の元同僚は音信不通、部下や顧客から連絡が来ることもなく、
フェイスブックの友達は、ただ**イイネ**をするだけの関係であり、

話したいことを話せる友人はおりません。

中には、数少ない友人がいる人もいるかもしれませんが、
年を取るにつれて、その友人もこの世から消えていきます。
残った自分が最後にすがりつく先は、
今までないがしろにしてきた**妻**です。

買い物に行くことにも同行し、まるで子供のように甘えます。
依存先が仕事から友人へ、そして妻に変わっただけです。
そうして妻にも先立たれ、いよいよ話す相手がなくなると、
お客様相談窓口で何でもいいから会話したくなるのです。

年を取れば取るほど人は**孤独**になります。
他人に**貢献できなくなる**からです。つまり**感謝されない**からです。
したがって、**あなたを必要とする人もいなくなる**のです。

誰もが、生まれるときは祝福されて生まれてくる一方で、
年を取れば取るほど周囲から人はいなくなり、
最後はひっそりと人知れず消えていきます。孤独死であれば、
異臭を放つようになってようやく気付いてもらえます。

もし、いつまでも他人から必要とされるような何かを身に付け、
年を取っても人に分け与えられるようになっていれば、
その人は孤独を緩和できるかもしれません。

それもこれもすべて**自業自得**です。**年を取ったあなたが、
周囲に対して貢献できることは、何かありますでしょうか？**

※過去の記事の

「年齢に比例して孤独になっていませんか？」(2016年6月)
にて、年を取っても貢献している老人を取り上げました。
興味ある方はご閲覧ください。

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)